

# 情報公開文書

研究の名称	病理診断レポート作成アシストツールの開発
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	病理部・田近洋介
研究の概要	<p>【研究対象者】 2022年4月から2024年3月の間に富山大学附属病院で膵癌に対する手術を受けた方、および膵臓の細胞（診）検査を受けられた方。</p> <p>【研究の目的・意義】 この研究の成果が、業務効率向上や医療安全性の確保、医師の働き方改革の推進に寄与することが期待されます。特に、医師等病理の作業軽減にはレポート作成の効率化は重要であり、本研究により作成効率を向上させることが期待されます。診断精度の均一化を行うためのツールとして活用が見込まれ、また、教育ツールとしての活用も見込まれます。この研究により、診断精度の向上と診断期間短縮による早期治療の開始など患者さんにとってもメリットのあるものとなります。</p> <p>【研究の方法】 1．画像認識 Artificial Intelligence（人工知能：AI）による病理画像からの病理所見の自動抽出 膵癌切除検体の細胞診標本 100 例を対象とします。画像データをクラウドで送信し、埼玉県立大学において、AI 技術を用い細胞診画像を解析し、良悪判定と組織推定を AI が行えるか明らかにします。 2．自然言語処理 AI によるレポート文章自動作成 昨年度の細胞診レポート 5000 例を対象とします。文章データをクラウドで送信し、仁愛女子短期大学において辻岡和孝先生が自然言語処理（BERT）の技術を用い病理医等の文章を解析し、AI がレポート文章を作成できるか、さらに、画像認識 AI と組み合わせて稼働できるかを明らかにします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 日本医学検査学会、日本臨床細胞学会での発表を予定しています。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	細胞診レポート 5000 例の診断文章および膵癌切除検体の細胞診標本 100 例の画像を対象とし、他機関へは匿名化したデータを提供します。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関におけ	富山大学附属病院 病理部 田近洋介

る研究責任者氏名)	
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7745 FAX 076-434-5109 E-mail <a href="mailto:tajika@med.u-toyama.ac.jp">tajika@med.u-toyama.ac.jp</a> 担当者所属・氏名 田近 洋介